

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

第2章 ハードウェア

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

第3章 BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

第4章 技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

目次

本書をお読みになる前に	4
本書の表記	7
リサイクルについて	10
第1章 各部名称	
1 各部の名称と働き	14
パソコン本体前面	14
パソコン本体右側面	16
パソコン本体左側面	17
パソコン本体背面	19
パソコン本体下面	20
FDD ユニット (USB)	20
2 状態表示 LCD について	21
第2章 ハードウェア	
1 周辺機器を取り付ける前に	24
使用できる周辺機器	24
取り扱い上の注意	25
2 バッテリーについて	26
バッテリーを充電する	26
バッテリーを運用する	26
バッテリー残量を確認する	27
LOW バッテリー状態	28
取り扱い上の注意	29
バッテリーパックを交換する	30
3 PC カードについて	32
取り扱い上の注意	32
PC カードをセットする	32
PC カードを取り出す	34
4 プリンタについて	36
接続について	36
5 外部ディスプレイについて	37
接続について	37
6 ポインティングデバイスについて	39
クイックポイント IV について	39
タッチパネルについて (タッチパネルモデルのみ)	41
マウスの使い方	43
USB マウスについて	44
7 キーボードについて	46

8	フロッピーディスクについて	49
	取り扱い上の注意	49
	FDD ユニット (USB) の取り付け／取り外し	49
	フロッピーディスクをセットする／取り出す	50
9	ハードウェアのお手入れ	52
	パソコン本体のお手入れ	52
	フロッピーディスクドライブのお手入れ	52

第 3 章 BIOS

1	BIOS セットアップとは	54
2	BIOS セットアップの操作のしかた	55
	BIOS セットアップを起動する	55
	設定を変更する	56
	各キーの役割	57
	BIOS セットアップを終了する	58
3	メニュー詳細	59
	メインメニュー	59
	詳細メニュー	60
	セキュリティメニュー	61
	省電力メニュー	63
	起動メニュー	65
	情報メニュー	65
	終了メニュー	66
4	BIOS のパスワード機能を使う	67
	パスワードの種類	67
	パスワードを設定する	67
	パスワードを忘れてしまったら	69
	パスワードを変更／削除する	69
5	BIOS が表示するメッセージ一覧	70
	メッセージが表示されたときは	70
	メッセージ一覧	71

第 4 章 技術情報

1	仕様一覧	76
	本体仕様	76
	ワイヤレス LAN 仕様	78
	FDD ユニット (FMV-NFD52S) 仕様	78
2	コネクタのピン配列と信号名	79

索引	80
-----------------	----

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本パソコンを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本パソコンをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本パソコンをお使いください。また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本パソコンの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- ・ 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・ 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- ・ 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・ 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- ・ 修理後は、パソコンの内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクなどに複写して、保管しておいてください。
- ・ 本パソコンの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後6年間です。

保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお申し込みください。

■ 契約サービス

お客様と契約に基づき、機器管理を行います。

保守サービス料金は月額定期保守料をお客様に負担していただきます。

料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

・ 定期保守サービス

トラブルを未然に防止するとともに、機器の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。

業務にご利用の場合などで、機器の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。

・ 定額訪問修理サービス

万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。

・ 定額点検サービス

トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。

点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

■ スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。

保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

・ スポット訪問修理サービス

お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。

修理料金はその都度ご清算いただけます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。

・ スポット持込修理サービス

「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお持ち込みいただき、修理完了後に、お客様にお引き取りいただけます。経済的な費用で修理できます。

・ スポット引取修理サービス

お客様のご依頼により、弊社指定の運送業者がお客様をご訪問させていただき、機器を回収いたします。修理完了後に、お客様までご返送させていただくサービスです。

なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、往復の運送に必要な費用は別途有償となります。

・ スポット点検サービス

お客様のご依頼により、保守員がお客様を訪問させていただき、機器を整備・点検します。

機器の長期間の使用や移設作業後に点検を行いたい場合などにご利用いただけます。なお、点検時に部品交換などが必要と判断された場合は別途有償とさせていただきます。

※アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元へお問い合わせください。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

この装置は、マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

当社は、国際エネルギースタートアッププログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタートアッププログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



本装置は、社団法人電子情報技術産業協会が定める高調波ガイドラインの適用対象外です。

本装置の使用環境は、温度 5 ～ 35 ℃、湿度 20 ～ 80% です。また、保存環境は、温度 -10 ～ 60 ℃、湿度 20 ～ 80% です。

このパソコンは、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

H[®] IN モジュール /AirH[®] IN モジュール搭載機種の場合、搭載されている H[®] IN モジュール /AirH[®] IN モジュールは日本国内でのみ使用できます。海外で使用した場合は罰せられることがありますのでご注意ください。海外ではワイヤレススイッチを必ず OFF にしてください。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・ 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

本製品には、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスクなど）が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。

データのバックアップについて

本装置に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本パソコンにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本パソコンでのみ使用できます。なお、お客様は本パソコンのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
 - (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
 - (2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア（本パソコンに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本パソコンに添付されている媒体を本パソコンとは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをとまなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 保証の範囲
 - (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
 - (2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
 - (3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
8. ハイセイフティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

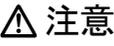
マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（<http://www.microsoft.com/japan/>）。お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。したがって、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe
```

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」 - 「フロッピーディスク A」：使用しない

■ フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブ

フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルの場合、各ドライブが必要な操作では、別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、『システム構成図』をご覧ください。

周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2002 年 1 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→『修理サービス網一覧表』参照）。

■ カスタムメイドオプション

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■ 製品の呼び方

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows ※
Microsoft® Windows® XP Home Edition	Windows XP Home Edition		
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000		
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	Windows NT		
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me		
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows 98		
Microsoft® MS-DOS® operating system	MS-DOS		
VirusScan Ver.4.5.1	VirusScan		
Adobe® Acrobat® Reader 5.0	Acrobat Reader		
Intel® SpeedStep™ Technology Applet	Intel SpeedStep		
Intellisync® for Notebooks	Intellisync		
Phoenix® Portables Suite	Portables Suite		

※：Windows XP/2000/NT/Me/98 のように併記する場合があります。

■ 機種名表記

本文中の機種名を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種以外の情報もありますが、ご了承ください。

機種名	本文中の表記	
FMV-270LS FMV-270LS/WL FMV-270LS/W1	[LS]	本パソコン パソコン本体
FMV-6120NA	[NA]	その他のパソコン
FMV-6000NU FMV-6866NU FMV-686NU	[NU]	
FMV-685NU/E	[NUE]	
FMV-6800MG/WL FMV-6800MG FMV-675MG	[MG]	
FMV-660MC9/W	[MC]	

モデル	本文中の表記
モデム搭載	モデム搭載モデル
LAN 搭載	LAN 搭載モデル
有線 LAN 搭載	有線 LAN 搭載モデル

■ 警告ラベル／注意ラベル

本パソコンには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

リサイクルについて

■ パソコン本体の廃棄について

パソコンの液晶ディスプレイ内の蛍光管には水銀が含まれております。パソコンを廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

● 法人・企業のお客様へ

パソコンを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分量の許可を取得している会社に処分を委託する必要があります。弊社は、「富士通りサイクルシステム」を用意し、お客様の廃棄のお手伝いをしておりますのでご利用ください。

● 個人のお客様へ

パソコンを廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

■ 富士通リサイクルシステムについて

当社では平成 10 年より、法人・企業のお客様から廃棄されるパソコン本体を「富士通リサイクルシステム」（有料）にて回収・リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでおります。

お問い合わせ／お申し込み先：(株) 富士通リサイクルシステム

(<http://eco.fujitsu.com/info/eco19990827.html>)

をご参照ください。

なお、法人・企業以外のお客様はお申し込みできません。

■ お使用済バッテリーパックの廃棄について

バッテリーパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。バッテリーパックを火中に投じると破裂のおそれがあります。使用済バッテリーパックは、ビニールテープなどで絶縁処理をしてください。

● 法人・企業のお客様へ

使用済バッテリーパックを廃棄する場合は、富士通株式会社環境本部（電話番号：044-754-3411）にお問い合わせください。

● 個人のお客様へ

使用済バッテリーパックは、「充電式電池リサイクル協力店くらぶ」に加入の販売店などに設置してあるリサイクル BOX に入れてください。



Li-ion

このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

Puma Technology、Intellisync は米国プーマテクノロジー社の商標です。

Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。

K56flex は、Lucent Technologies 社、Conexant Systems Inc. の商標です。

VirusScan は米国法人 Network Associates, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

Intel® SpeedStep™ Technology は、米国 Intel Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

ZAURUS は、シャープ株式会社の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2002

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo _____

第 1 章

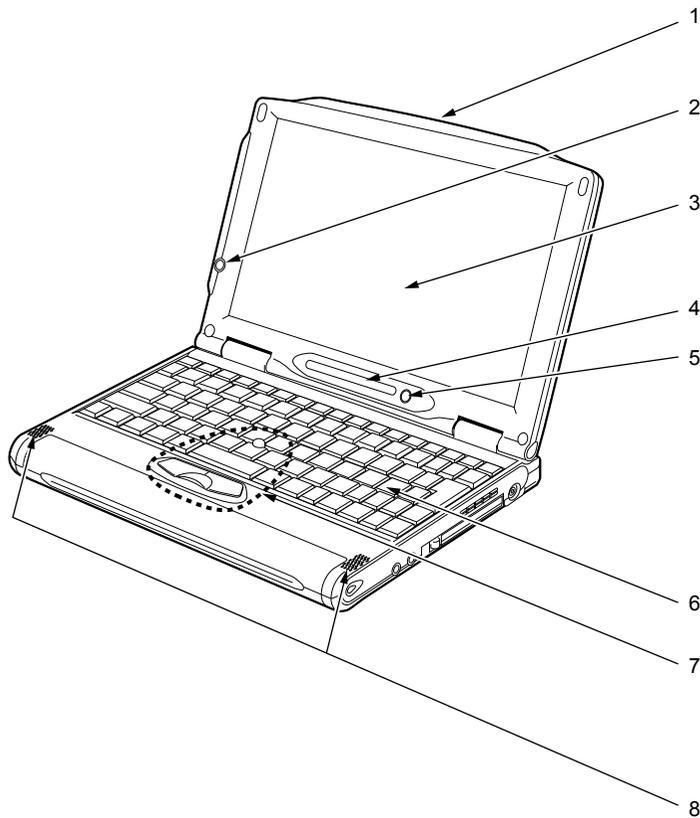
各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	14
2 状態表示 LCD について	21

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面



1 ペンホルダー、ペン

お使いのモデルにより、タッチパネルを操作するペンが収納されています。

2 E-mail ボタン

メールソフトが起動します。

添付の「ワンタッチボタン設定」をインストール後、設定を行います。

3 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

また、お使いのモデルにより、タッチパネルが貼り付けられています (→ P.41)。

POINT

▶ 液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・ 本パソコンの TFT カラー液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 184 万個以上 (解像度 1024 × 600 の場合) の画素 (ドット) より作られています。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・ 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

4 状態表示 LCD

本パソコンの状態が表示されます。

「各部名称」 - 「状態表示 LCD について」 (→ P.21)

5 SUS/RES スイッチ

パソコン本体をスタンバイ (一時停止) / レジューム (再開) させるためのスイッチです。

6 キーボード

文字を入力したり、パソコン本体に命令を与えます。

「ハードウェア」 - 「キーボードについて」 (→ P.46)

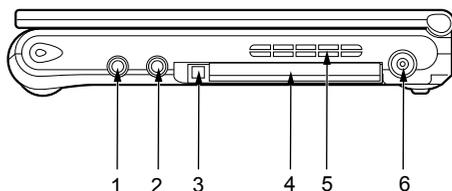
7 クイックポイント IV

マウスポインタを操作します (→ P.39)。

8 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

パソコン本体右側面



⚠ 注意

聴力障害



- ヘッドホン端子、マイク端子に接続するときは、【Fn】 + 【F8】 キーを押してパソコン本体の音量を最小にしてから接続してください。
機器が破損したり、刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

1 ヘッドホン端子

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠ 注意

聴力障害



- ヘッドホンなどをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害



- ヘッドホンなどをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

2 マイク端子

市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

3 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに押します。

「ハードウェア」 - 「PC カードを取り出す」 (→ P.34)

4 PC カードスロット

別売の PC カードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」 - 「PC カードをセットする」 (→ P.32)

5 通気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすための穴です。

⚠ 注意

故障

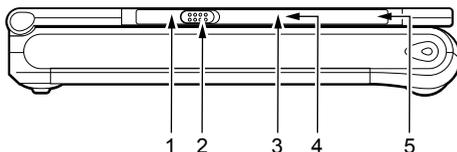


- 通気孔はふさがらないでください。
内部に熱がこもり、故障の原因となることがあります。

6 DC-IN コネクタ

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

パソコン本体左側面



1 メール着信ランプ（オレンジ）（FMV-270LS/W1 のみ）

メールが届くとオレンジ色のランプが点灯します。

POINT

- ▶ H[™] LINK の E メールを受信すると、ランプが「点灯」します。
- ▶ このランプでプロバイダ経由の未読メールを知らせるように設定することができます。

2 ワイヤレススイッチ（FMV-270LS/W1, 270LS/WL）

FMV-270LS/W1 では、AirH[™] IN によるデータ通信機能の ON と OFF を切り替えます。

FMV-270LS/WL では、ワイヤレス LAN による通信機能の ON と OFF を切り替えます。

手前（液晶ディスプレイが開いている場合は上）にスライドさせると ON、奥（液晶ディスプレイが開いているときは下）にスライドさせると OFF になります。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。

重要

- ▶ FMV-270LS/W1 をお使いの方でパソコンを持ち運ぶ場合は、ワイヤレススイッチを OFF にすることをお勧めします。スタンバイ中、H[™] LINK の E メール到着通知を受信したときに、レジャーモードのように設定している場合、持ち運び時にレジャーモードするとハードディスクが故障する可能性があります。

POINT

- ▶ FMV-270LS/W1 では、ワイヤレススイッチを OFF にしていると、H[™] LINK のメール着信通知が来ませんのでご注意ください。
- ▶ AirH[™] IN について詳しくは『モバイル通信ガイド』をご覧ください。
- ▶ ワイヤレス LAN について詳しくは『ワイヤレス LAN をお使いになる方へ』をご覧ください。

3 通信ランプ（緑）（FMV-270LS/W1 のみ）

内蔵モデムや AirH[™] IN でインターネットに接続中または Eメールの受信中に緑色のランプが点灯します。通信ランプは液晶ディスプレイの表側から見るすることができます。

4 電界強度表示ランプ（青）（FMV-270LS/W1 のみ）

ワイヤレススイッチが ON のときに青色のランプの点灯・消灯・点滅により、電波の強さを表します。電界強度表示ランプは液晶ディスプレイの裏側から見るすることができます。

ランプの点灯状況		電界レベル
点灯したまま		5
点滅	点灯時間 > 消灯時間	3 ~ 4
	点灯時間 = 消灯時間	1 ~ 2
	点灯時間 < 消灯時間	0
消灯したまま		圏外

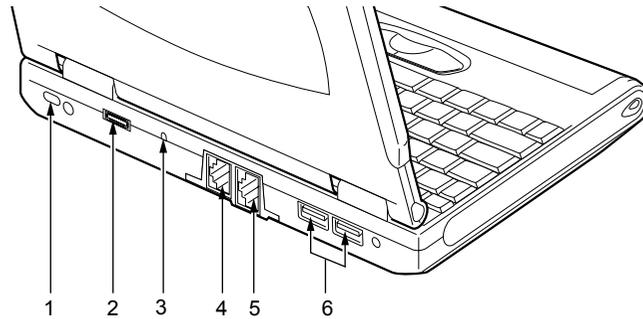
5 AirH[™] IN モジュール用アンテナ (FMV-270LS/W1 のみ)

内蔵ワイヤレス LAN アンテナ (FMV-270LS/WL のみ)

FMV-270LS/W1 では、AirH[™] IN モジュール用のアンテナが内蔵されています。

FMV-270LS/WL では、ワイヤレス LAN 用のアンテナが内蔵されています。

パソコン本体背面



1 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

POINT

- ▶ 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
商品名：マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）
商品番号：0522010
（富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）

2 外部ディスプレイコネクタ

別売の CRT ディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。
「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」（→ P.37）

3 強制終了スイッチ

パソコンを強制的に終了させるためのスイッチです。動作中に押すと、作業中のデータが失われることがあります。

4 モデムコネクタ

インターネットやパソコン通信をするときに、モジュラーケーブルを使ってパソコン本体と電話回線を接続するためのコネクタです。
「機能」－「内蔵 FAX モデムについて」

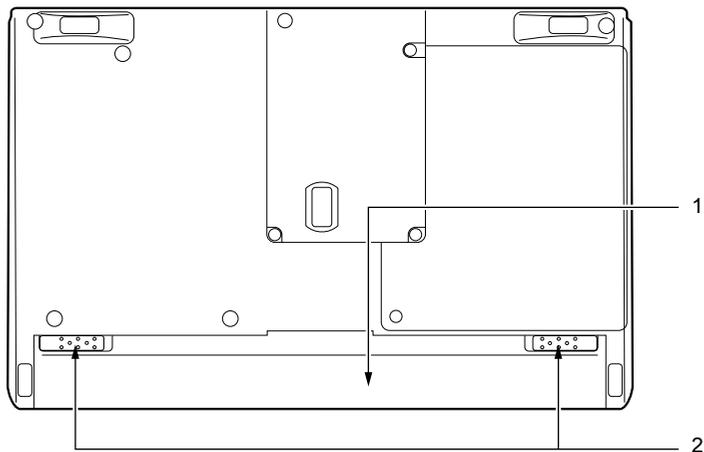
5 LAN コネクタ（FMV-270LS のみ）

お使いのモデルにより、LAN コネクタを搭載しています。
「機能」－「内蔵 LAN について」

6 USB コネクタ

FDD ユニット（USB）や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。2 ポートあります。USB 規格の周辺機器をどちらのポートに接続してもかまいません。

パソコン本体下面



1 バッテリパック

バッテリパックが装着されています。

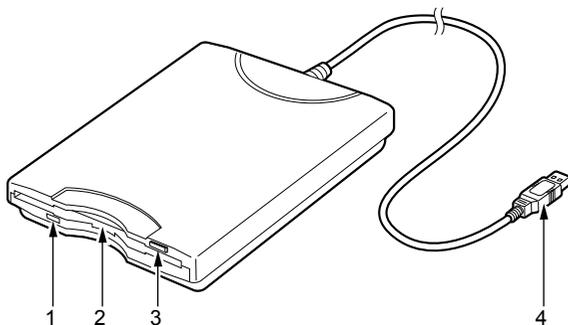
「ハードウェア」－「バッテリパックを交換する」(→ P.30)

2 バッテリパックロック

バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。

FDD ユニット (USB)

お使いのモデルにより、FDD ユニット (USB) を添付しています。



1 アクセスランプ

フロッピーディスクドライブの動作中に点灯します。

2 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりします。

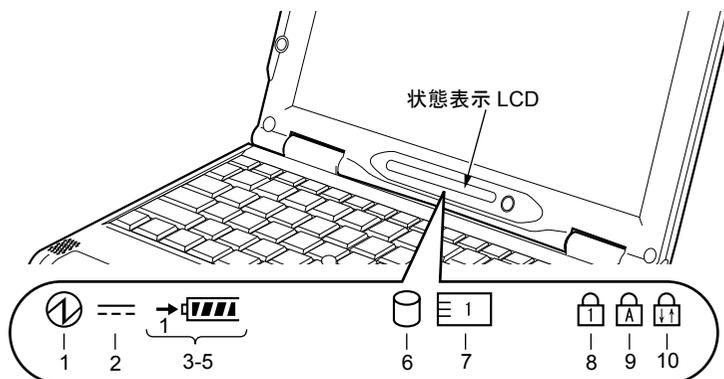
3 フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

4 接続コネクタ

パソコン本体と接続するコネクタです。

2 状態表示 LCD について



POINT

▶ 電源を切っている場合は、充電中を除いて状態表示 LCD の全表示が消灯します。

- 1 SUS/RES 表示 (⏻)**
本パソコンが動作状態のときに点灯し、スタンバイ状態のときに点滅します。
- 2 AC アダプタ表示 (⏻)**
AC アダプタから電源が供給されているときに点灯します。
- 3 バッテリー装着表示 (1 [])**
バッテリーが取り付けられているときに点灯します。
- 4 バッテリー充電表示 (➡)**
バッテリーが充電しているときに点灯します。また、バッテリーが熱くなっていたり、冷えていて充電を行わない場合は点滅します。
「ハードウェア」－「バッテリーを充電する」(→ P.26)
- 5 バッテリー残量表示 ([])**
バッテリーの残量を表示します。
「ハードウェア」－「バッテリー残量を確認する」(→ P.27)
- 6 ハードディスクアクセス表示 ([])**
内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

POINT

▶ ハードディスクアクセス表示が点灯中に、SUS/RES スイッチや強制終了スイッチを操作すると、ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。

- 7 PC カードアクセス表示 ([])**
PC カードにアクセスしているときに点灯します。
- 8 Num Lock 表示 ([])**
キーボードがテンキーモードのときに点灯します。【NumLk】キーを押して、テンキーモードの設定と解除を切り替えます。
「ハードウェア」－「キーボードについて」(→ P.46)

9 Caps Lock 表示 ()

英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。

【Shift】 + 【CapsLock】 キーを押して、英大文字固定モードの設定と解除を切り替えます。

10 Scroll Lock 表示 ()

画面をスクロールしないように設定したときに点灯します。

【Fn】 + 【NumLk】 キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。

点灯中の動作は、アプリケーションに依存します

第2章

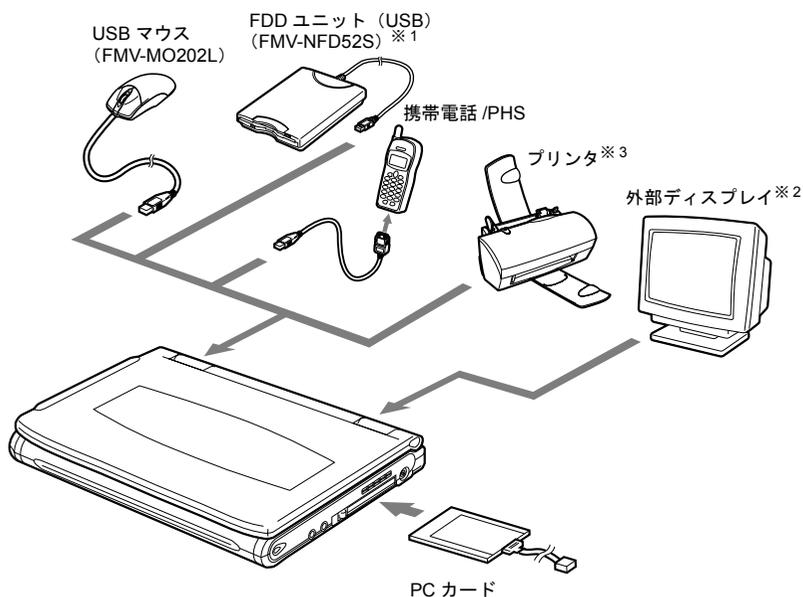
ハードウェア

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に	24
2 バッテリーについて	26
3 PCカードについて	32
4 プリンタについて	36
5 外部ディスプレイについて	37
6 ポインティングデバイスについて	39
7 キーボードについて	46
8 フロッピーディスクについて	49
9 ハードウェアのお手入れ	52

1 周辺機器を取り付ける前に

使用できる周辺機器



※1: FDD ユニット (USB) にセットしたフロッピーディスクから起動する場合は、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の使用のみサポートしています。

※2: CRT 変換ケーブル (FMV-NCBL1) が必要です。

※3: パラレルコネクタに接続するプリンタをお使いになる場合にはプリンタのマニュアルをご覧になり「USB ケーブル」をご用意ください。

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**
パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付け後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。周辺機器の接続は、本書をよくご覧になり、正しく行ってください。
- **周辺機器のマニュアルもご覧ください**
本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。
- **純正品をお使いください**
弊社純正のオプション機器については、「システム構成図」をご覧ください。
他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- **ACPIに対応した周辺機器をお使いください**
本パソコンはACPIモードに設定されています。ACPIモードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。
また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。
- **取り付け／取り外し時の注意**
周辺機器の取り付けは、OSのセットアップ終了後に行ってください。OSのセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われぬおそれがあります。OSのセットアップについては、『取扱説明書』をご覧ください。

重要

- ▶ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ▶ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定を行ってください。

2 バッテリについて

バッテリーを充電する

1 ACアダプタを接続します。

ACアダプタを接続すると充電が始まり、状態表示LCDにバッテリー充電表示() の ) と、そのときのバッテリー残量が表示されます。

2 バッテリ充電表示が消えたことを確認し、ACアダプタを取り外します。

POINT

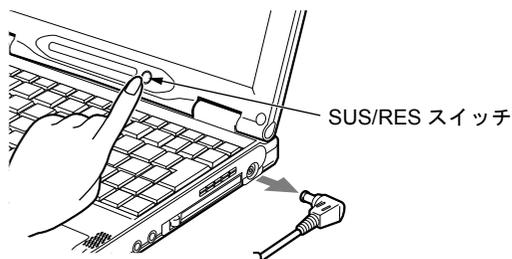
- ▶ 充電時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→ P.76)をご覧ください。
- ▶ 本パソコンご購入時、1ヶ月以上充電していない場合、またはバッテリー残量が少ない場合は、バッテリーを充電してからお使いください。
- ▶ バッテリの充電は、バッテリー充電表示() が消え、左端のバッテリー残量表示が点滅() から点灯() に変わると完了です。バッテリーの充電は十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- ▶ バッテリ残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ 電源が切れている場合、充電が完了してしばらくすると状態表示LCDの全表示が消灯します。
- ▶ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力は低下します。
- ▶ バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働いて充電が行われない場合があります( が点滅します)。しばらくして、バッテリーの温度が低下すると充電が開始されます。

バッテリーを運用する

ここでは、本パソコンをバッテリーで使用する場合について説明します。

1 ACアダプタを取り外し、SUS/RESスイッチを押します。

 が点灯します。



POINT

- ▶ 周囲の温度が低いと、バッテリー稼働時間は短くなります。
- ▶ バッテリー稼働時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→ P.76) をご覧ください。
- ▶ バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリー稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。

バッテリー残量を確認する

バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LCD のバッテリー残量表示で確認できます。

■ バッテリーの残量表示

-  約 100%～約 76%のバッテリー残量を示します。
↓
-  約 75%～約 51%のバッテリー残量を示します。
↓
-  約 50%～約 26%のバッテリー残量を示します。
↓
-  約 25%～約 13%のバッテリー残量を示します (充電中は、0%～約 25%のバッテリー残量を示します)。
↓
-  LOW バッテリー状態 (約 12%以下のバッテリー残量) を示します。■ が点滅します。
↓
-  バッテリー切れ状態 (0%のバッテリー残量) を示します。

POINT

- ▶ バッテリー残量表示 () は、バッテリー (リチウムイオン電池) の特性上、使用環境 (温度条件やバッテリーの充放電回数など) により、実際のバッテリー残量とは異なる表示をする場合があります。
- ▶ バッテリー残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。

■ バッテリーの異常表示

-  バッテリーが正しく充電できないことを示します。

POINT

- ▶  が点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでも点滅している場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。
「ハードウェア」－「バッテリーパックを交換する」(→ P.30)

LOW バッテリー状態

ここでは、本パソコンのバッテリーが LOW バッテリー状態になった場合と、その対処方法を説明します。

■ LOW バッテリー状態

状態表示 LCD のバッテリー残量表示が点滅し (), 警告音が鳴ります。

POINT

- ▶ スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。
【Fn】 + 【F3】 キーを押すと、スピーカーの ON と OFF が切り替わります。ピーと音がした場合は ON、音がしない場合は OFF になります。
- ▶ 警告音は、Windows の省電力機能で設定します。

■ LOW バッテリー状態の対処

1 AC アダプタを接続します。

AC アダプタを接続するとバッテリーが充電されます。

POINT

- ▶ LOW バッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のアプリケーションを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ▶ ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使います。LOW バッテリー状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してください。
- ▶ LOW バッテリー状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。
- ▶ 本パソコンでは、バッテリー残量が約 3% になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。設定を変更する場合は、次の項目のチェックを外してください。
 - ・「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスの「アラーム」タブの「バッテリー切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」ただし、これらの設定を変更すると、バッテリーが切れた時点で電源が切断されます。そのため、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

取り扱い上の注意

⚠ 警告



● バッテリーは、大変デリケートな製品です。取り付け／取り外しを行う場合は、落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーは、使用しないでください。

感電や破裂の原因となります。

- 分解しないでください
バッテリーを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。
- 放電について
 - ・バッテリーは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
 - ・長期間（約1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
- 寿命について
 - ・パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。
 - ・高温環境に放置した場合、バッテリーの消耗、劣化が進みます。
 - ・バッテリーは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリーと交換してください。
 - ・バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリーの寿命です。
 - ・寿命になったバッテリーは、パソコン本体から取り外してください。取り付けのまま放置すると、感電や火災の原因となります。
- 廃棄について
バッテリーを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。
- バッテリー稼働時間について
 - ・バッテリー稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します（→「機能」－「省電力」）。
 - ・バッテリー稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリー稼働時間が短くなる場合があります。
- 次のような場合は AC アダプタを使用してください
 - ・ハードディスクや CDなどを頻繁に使用するとき
 - ・LAN やモデムを頻繁に使用するとき
 - ・本パソコンをご購入時の状態に戻すとき

バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。ここでは、バッテリーパックの交換について説明します。

⚠ 警告



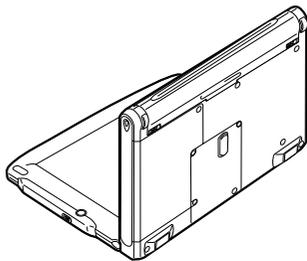
- バッテリーパックの交換を行う場合は、パソコン本体の電源を必ず切りACアダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリーパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

🔍 POINT

- ▶ 新しいバッテリーパックは、次の製品をお買い求めください。
 - 品名：内蔵バッテリーパック
 - 型名：FMVLBP103
 - 品名：内蔵バッテリーパック（L）
 - 型名：FMVLBP104
 - （ご購入元にお問い合わせください）

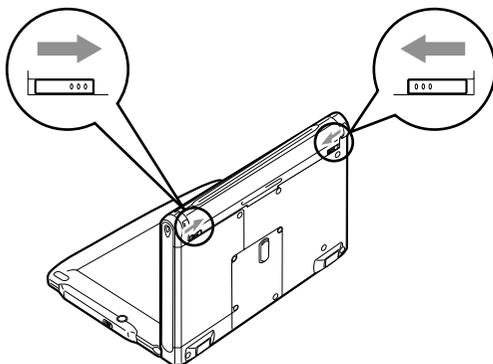
1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。

2 パソコン本体を次のように置きます。



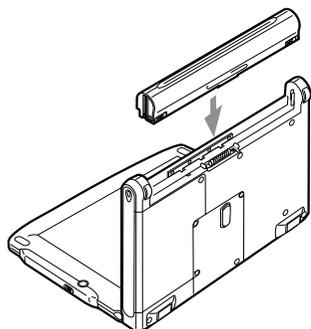
3 バッテリーパックを取り外します。

バッテリーパックロック（2ヶ所）を内側にスライドさせながら、バッテリーパックを取り外します。



4 新しいバッテリーパックを取り付けます。

バッテリーパックをパソコン本体と水平に差し込み、カチッと音がするまでしっかりと押し込みます。バッテリーパックロックは自動的にロックされます。



重要

- ▶ 取り外したバッテリーパックは、ショート（短絡）防止のために、バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置を行ってください。なお、取り外したバッテリーパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、バッテリーパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。

3 PCカードについて

取り扱い上の注意

⚠ 注意



- 故障 ● PCカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。PCカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

故障を防ぐため、PCカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

🔍 POINT

- ▶ 代表的なPCカードには次のようなものがあります。
 - ・ SCSIカード
SCSI規格対応のハードディスクやMO（光磁気ディスク）ドライブなどの機器を接続するときに必要なPCカードです。
 - ・ LANカード
複数のパソコンどうしをケーブルで接続して、データやプリンタなどを共有するときに必要なPCカードです。
- ▶ 通信系のPCカードの中には、2枚同時には使用できないものがあります。PCカードに添付のマニュアルで確認してください。また、LAN搭載モデルではLANカードが、モデム搭載モデルではモデムカードが使えない場合があります。
- ▶ 本パソコンでは、3.3Vまたは5Vを使用するPCカードのみサポートしています。12Vを使用するPCカードはサポートしていません。

PCカードをセットする

ここでは、PCカードのセットについて説明します。

⚠ 注意



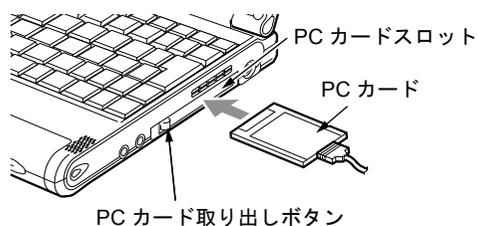
- けが ● PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

🔍 POINT

- ▶ PCカードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものや、デバイスドライバのインストールが必要なものがあります。PCカードのマニュアルで確認してください。

1 PCカードをセットします。

PCカード取り出しボタンを必ず押し込んだ状態でPCカードの製品名を上にして、PCカードスロットにしっかり差し込みます。



2 初めてセットしたPCカードの場合は、必要に応じてドライバをインストールします。

PCカードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。PCカードのマニュアルをご覧になり、ドライバをインストールしてください。

POINT

- ▶ PCカードとコードを接続しているコネクタ部分に物を載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ▶ PCカード経由で接続するタイプのCD-ROMドライブをお使いの場合、PCカードのドライバをインストールしている途中でCDを要求されたときに、次のように対応するとお使いになれることがあります。手順が複雑ですのでご注意ください。
 1. ドライバのインストールをキャンセルし、PCカードを取り出します。
 2. CD-ROMドライブを接続し、ドライバの入ったCDをセットします。
 3. PCカードのドライバの入ったCDの内容を、すべてハードディスクにコピーします。コピーは次のように行います。
 1. デスクトップ上に新規にフォルダを作成し、フォルダ名称を「CD」に変更します。
 2. 「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブ(ご購入時は「E:」)をクリックします。
 3. 「ツール」メニュー→「フォルダオプション」の順にクリックします。
 4. 「表示」タブの「詳細設定」で「すべてのファイルとフォルダを表示する」をクリックし、「OK」をクリックします。
 5. CD-ROMドライブの内容を手順1で作成したフォルダにすべてコピーします。
 6. コピーが終了したら、CD-ROMドライブを取り外し、もう一度PCカードをセットしてください。

ドライバのインストールの途中でCDを要求されたら、次のように操作してください。

1. 「検索場所の指定」をクリックし、「参照」をクリックします。
2. 表示されたウィンドウでデスクトップの「CD」をクリックし、「OK」をクリックします。

PC カードを取り出す

ここでは、各 OS での PC カードの取り出し方について説明します。

POINT

- ▶ コード付きのPCカードを取り出す場合、PCカードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PCカードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PCカードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルで確認してください。

■ Windows XP の場合

⚠ 注意



高温

- PCカードの使用終了直後は、PCカードが高温になっている場合があります。PCカードを取り出すときは、手順3の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となる場合があります。



けが

- PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れしないでください。けがの原因となる場合があります。

1 タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。

POINT

- ▶ タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ダイアログボックスで、「停止」をクリックしてPCカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

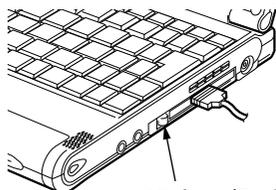
2 「XXXXXX を安全に取り外します」をクリックします。

XXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

4 PC カード取り出しボタンを押します。

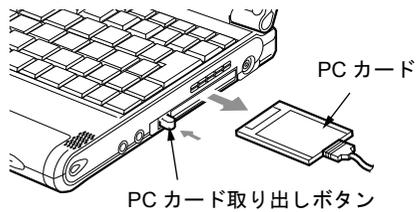
PC カード取り出しボタンが飛び出します。



PC カード取り出しボタン

5 PCカードを取り出します。

PCカード取り出しボタンを押し、飛び出したPCカードを引き抜きます。

**重要**

- ▶ PCカード取り出しボタンは必ず押し込んでください。飛び出した状態のまま使用するとボタンが破損することがあります。

■ Windows 2000 の場合**注意**

高温

- PCカードの使用終了直後は、PCカードが高温になっている場合があります。PCカードを取り出すときは、手順3の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



けが

- PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

1 「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックします。

2 「XXXXXX を停止します」をクリックします。

XXXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

3 「OK」をクリックします。

4 PCカードを取り出します。

Windows XP の場合の手順4以降を参照し (→ P.34)、PCカードを取り出します。

4 プリンタについて

POINT

- ▶ パラレルコネクタに接続するプリンタをお使いになる場合は、プリンタのマニュアルをご覧ください。「USB 変換ケーブル」を用意してください。

接続について

警告



感電

- プリンタの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。

注意



故障

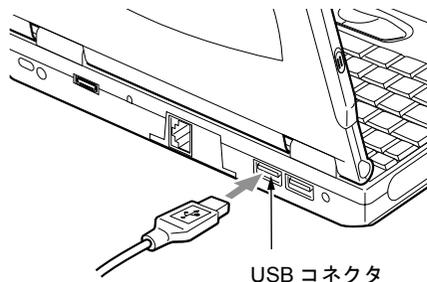
- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

1 プリンタに、プリンタケーブルおよび電源ケーブルを接続します。

接続方法は、プリンタのマニュアルをご覧ください。
プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。

2 パソコン本体背面の USB コネクタに、プリンタケーブルを接続します。

コネクタの刻印が上側になるように接続してください。



3 プリンタの電源ケーブルのプラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

4 初めて接続したプリンタの場合は、ドライバをインストールします。

プリンタのマニュアルをご覧ください。ドライバのインストールを行ってください。

POINT

- ▶ プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。詳しくは、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

5 外部ディスプレイについて

接続について

本パソコンは、プロジェクターや CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。

ここでは、パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、CRT ディスプレイを接続する場合について説明します。

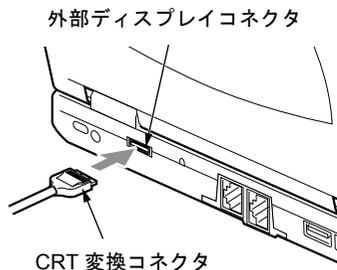
⚠ 警告

- 感電** ● 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。

⚠ 注意

- 故障** ● ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します (→『取扱説明書』)。
- 2 ディスプレイケーブルを CRT 変換ケーブルに接続します。
コネクタには上下の向きがあります。コネクタの形をお互いに合わせてしっかり差し込んでください。
- 3 パソコン本体背面の外部ディスプレイコネクタに、CRT 変換ケーブルを接続します。
コネクタには上下の向きがあります。コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込んでください。



- 4 CRT ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。
接続方法は、CRT ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 5 CRT ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。
- 6 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

POINT

- ▶ 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示される
この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。
 - ▶ 外部ディスプレイなど磁界を発生する機器と FDD ユニットは離して使用してください。
- 7 画面の表示を切り替えます。
- 【Fn】 + 【F10】 キーを押すと、液晶ディスプレイ → CRT → 同時表示 → 液晶ディスプレイ…の順で表示を切り替えることができます。また、OS の「画面のプロパティ」でも切り替えることができます (→「機能」 - 「表示装置の切り替え」)。

重要

- ▶ パソコンから CRT 変換ケーブルを取り外すときは、コネクタの上側にあるボタンを押しながらかき抜いてください。

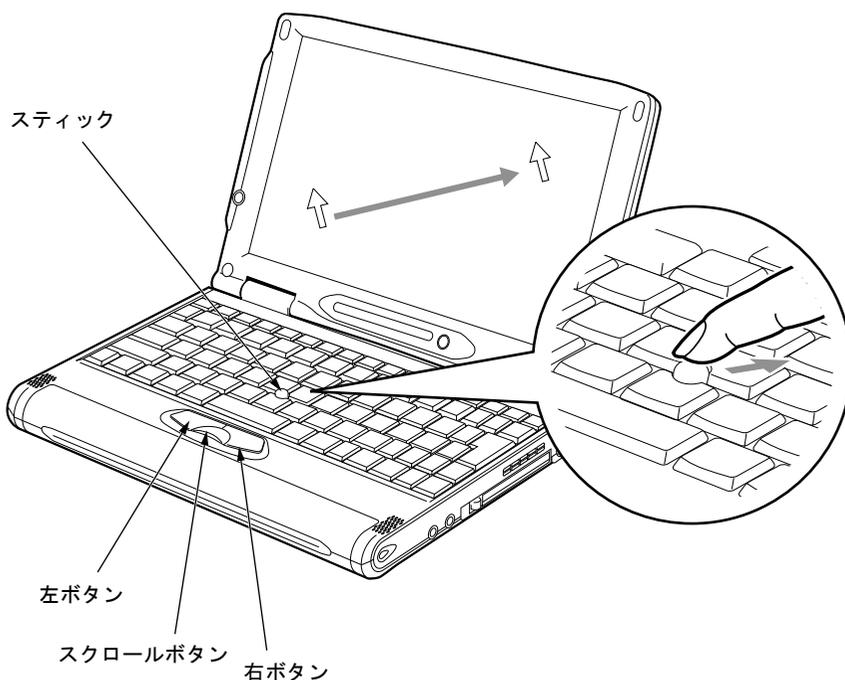
6 ポインティングデバイスについて

クイックポイント IV について

クイックポイントIVは、指先の操作でマウスポインタを動かすことのできる便利なポインティングデバイスで、キーボード中央にあるスティックとキーボード手前側にあるボタンで構成されています。

スティックは、マウスでいえばボール部分の機能を持ち、指先で上下左右に押すことにより、画面上のマウスポインタを移動させます。

左右のボタンは、それぞれマウスの左右ボタンに相当し、その機能はアプリケーションにより異なります。中央のスクロールボタンは、画面をスクロールしたいときに使います。

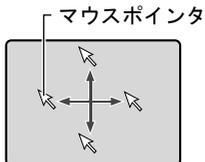
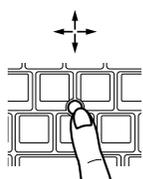


POINT

- ▶ USB マウスを使用する場合は、「ハードウェア」－「USB マウスについて」(→ P.44)をご覧ください。
- ▶ スティックのキャップは古くなると、表面がすべりやすくなります。キャップが古くなった場合は、添付のゴムキャップと交換してください。また、下記にお問い合わせをして、新しいゴムキャップを購入することもできます。
(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ : 03-3342-5375)

■ クイックポイント IV の使い方

□ スティックの操作

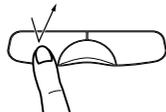


スティックに指をかけて上下左右に押ししてください。押した方向と画面上の矢印（マウスポインタ）が同じように動きます。画面を見ながら、スティックを押してみてください。

マウスポインタは自然に移動する場合がありますが、故障ではありません。マウスポインタが停止するまで(3秒ほど)待ってから操作してください。

□ ボタンの押し方

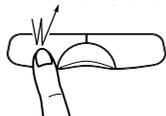
● クリック



左ボタンを1回カチッと押して、すぐ離すことです。

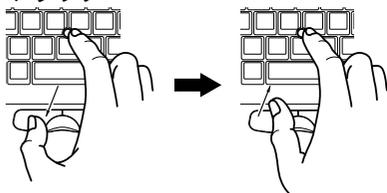
また、右ボタンを1回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック

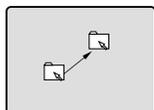


左ボタンを2回連続してカチカチッと押して、すぐ離すことです。

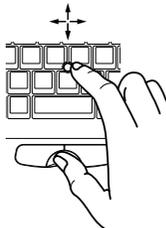
● ドラッグ



左ボタンを押したままスティックを押してマウスポインタを移動し、希望の位置でボタンを離します。



● スクロール



ウィンドウ内のスクロールする領域をクリックしてから、スクロールボタンを押しながらスティックを動かします。

ウィンドウ内の表示が、スティックを上下に動かすと縦スクロール、左右に動かすと横スクロールします。

POINT

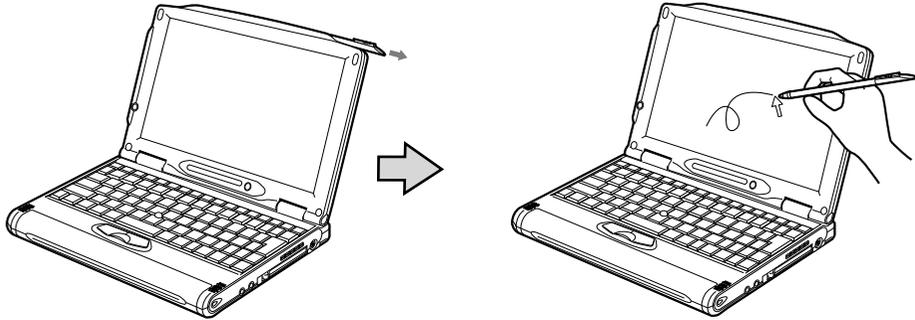
- ▶ 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割やマウスポインタの速度などは、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで変更できます。
- ▶ クイックポイント IV のスティックをわずかに傾けた状態で、数秒間ゆっくり動かしているときに、マウスポインタが逆方向に動くことがありますが、故障ではありません。マウスポインタが停止するまでお待ちください。

タッチパネルについて（タッチパネルモデルのみ）

タッチパネルは、画面上で直接マウスポインタを操作できる便利なポインティングデバイスです。本パソコンの液晶ディスプレイに貼り付けられているタッチパネルを、添付のペンで操作します。画面上を直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

ペンを横にスライドして抜き出します。
(ペンを使わないときは、ペンホルダーに差し込んでおきます)

画面上でペンを移動させると、
マウスポインタが移動します。

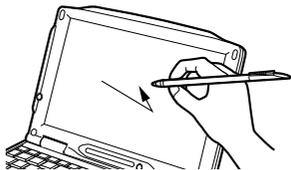


POINT

- ▶ タッチパネルは、添付のペンで操作してください。指先やボールペンなどで操作すると、パネルが汚れたり、傷がついたりします。
- ▶ タッチ操作をするときは、手が触れないように気をつけてください。手で触ってしまうとマウスポインタが動いてしまいます。
- ▶ ペンの先を画面に押しつける力が不十分な場合、正しく操作が認識されないことがあります。添付のペンを用いて、確実に画面を押して操作をしてください。
- ▶ ペンを破損したり紛失したときは予備のペンをご購入ください。
(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375)

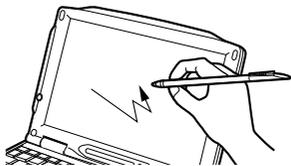
■ タッチパネルの使い方

● クリック



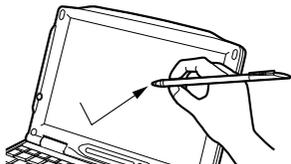
画面を軽く1回タッチして、すぐにペンを離します。

● ダブルクリック



画面をすばやく2回タッチして、すぐにペンを離します。

● ドラッグ



画面に軽く押し付けながらなぞります。

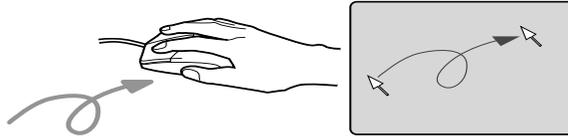
POINT

- ▶ 上記以外にも、タッチパネルでは次の操作を行えます。
タッチパネルで行えない操作は、クイックポイントIVをお使いください。
 - ・サブメニューを開くとき：開きたいメニュー項目にタッチします。
 - ・アイコンを選択するとき：選択したいアイコンの近くにペンを軽く押し付け、アイコンの上までドラッグしてアイコンを反転状態にします。
 - ・アイコンを右クリックするときは『取扱説明書』をご覧ください。
 - ・その他の項目を右クリックするとき：クイックポイントIVをお使いください。
 - ・タスクバーのアイコンが表示されないときは、クイックポイントIVで操作してください。

マウスの使い方

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

● クリック



マウスの左ボタンを1回カチッと押します。

また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。

● ダブルクリック



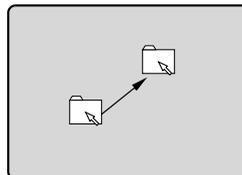
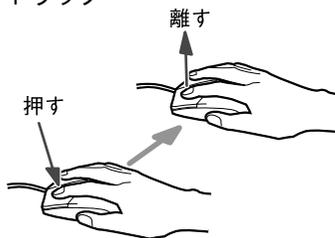
マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。

● ポイント



マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。

● ドラッグ



マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。

POINT

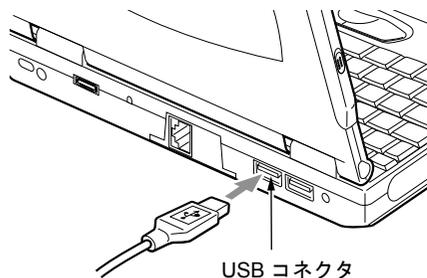
- ▶ 上記のボタンの操作は、右利き用に設定した場合の操作です。左右のボタンの役割やマウスポインタの速度などは、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで変更できます。

USB マウスについて

■ 接続について

本パソコンは、USB コネクタに別売の USB マウス (FMV-MO202L) を接続できます。

- 1 パソコン本体背面の USB コネクタに、マウスを接続します。
コネクタの刻印が上側になるように接続してください。



POINT

- ▶ パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。なお取り付け時はコネクタをまっすぐ接続してください。
- ▶ USB マウスを接続してもクイックポイント IV は無効になりません。クイックポイント IV を無効にする場合は、次の「クイックポイント IV を無効にするには」をご覧ください。
- ▶ USB マウスはどちらの USB コネクタにも接続できます。

■ クイックポイント IV を無効にするには

本パソコンに USB マウスを接続すると、クイックポイント IV と USB マウスの両方が有効になります。USB マウスを接続したときにクイックポイント IV を無効にする場合は、次のように設定してください。

- 1 BIOS セットアップの「クイックポイント手動設定」の項目を「使用する」に設定します。
「BIOS」 - 「BIOS セットアップの操作のしかた」 (→ P.55)
- 2 Windows が起動したら、【Fn】 + 【F4】 キーを押します。
キーを押すたびに、クイックポイント IV の有効と無効が切り替わります。
有効の場合は「Internal pointing device:Enable」、無効の場合は「Internal pointing device:Disable」などと表示されます。

重要

- ▶ クイックポイント IV を無効にする場合は、必ずマウスを接続してください。

 **POINT**

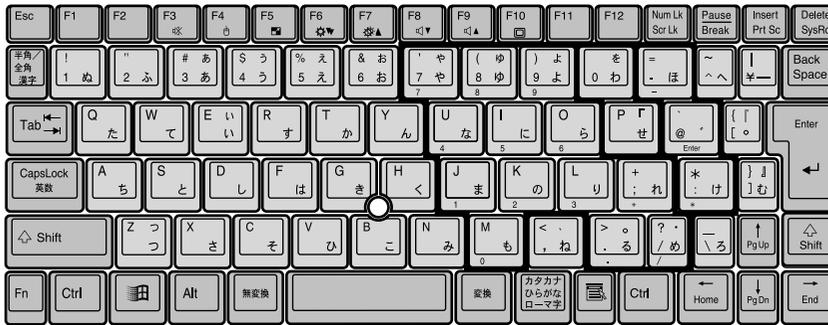
- ▶ 【Fn】 + 【F4】 キーを押してクイックポイント IV を無効にしても、本パソコンの再起動後およびレジューム後は、クイックポイント IV が有効になります。クイックポイント IV を無効にする場合は、もう一度【Fn】 + 【F4】 キーを押して切り替えてください。
- ▶ Windows 2000 の「電源オプションのプロパティ」に「BATTERYAID (2/2)」タブが表示されていない場合は、手順 2 で表示されるメッセージは画面に表示されません。

7 キーボードについて

キーボードは、コンピュータに対して指示やデータを入力し、実行させるための装置です。キーは大きく分けると、2種類に分かれます。

■ : 文字キー

■ : 制御キー



■ テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー（数値入力を容易にするキー配列）として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【NumLk】キーで行い（状態表示 LCD に **1** を表示）、上図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

■ 主なキーの名称と働き

【Esc】キー

ソフトウェアの実行中の動作を終了します。

【F1】～【F12】キー

アプリケーションごとに使い方が決められます。

【Fn】キー

本パソコン独自のキーです。次のような働きがあります。

【Fn】 + 【F3】

スピーカーの ON/OFF を切り替えます。
本操作をして「ピー」と音がした場合は ON、音がしない場合は OFF です。

【Fn】 + 【F4】

BIOS セットアップの「内蔵ポインティングデバイス」(→ P.60) の項目を「手動」に設定したときに、クイックポイント IV の有効と無効を切り替えます。

【Fn】 + 【F5】

全画面表示と通常表示を切り替えます。

【Fn】 + 【F6】

液晶ディスプレイのバックライトを暗くします。

【Fn】 + 【F7】

液晶ディスプレイのバックライトを明るくします。

POINT

- ▶ 【Fn】 + 【F6】キーまたは【Fn】 + 【F7】キーでのバックライトの明るさの調節は、8段階に設定できます。

【Fn】 + 【F8】

音量を小さくします。

【Fn】 + 【F9】

音量を大きくします。

POINT

- ▶ 【Fn】 + 【F8】キー、【Fn】 + 【F9】キーでの音量調節は、17段階に設定できます。
- ▶ 【Fn】 + 【F8】キー、【Fn】 + 【F9】キーでの音量の調節は、タスクバーの音量アイコンをクリックして表示される音量つまみで設定した音量を最大音量とし、その範囲で音を小さくしたり大きくしたりできます。
音声入出力時のバランスや音量などは、音量を設定するダイアログボックスで設定できます(→「機能」-「音量の設定」)。
- ▶ 【Fn】 + 【F9】キーで音量を大きくしても音が聞こえない場合は、ピーという音がするまで【Fn】 + 【F3】キーを押してください。また、音量を設定するダイアログボックスの設定がミュート(消音)になっていないか確認してください。
- ▶ 音量を大きくして音が割れる場合には、音量を小さくしてください。

【Fn】 + 【F10】

液晶ディスプレイのみの表示、外部ディスプレイのみの表示、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を切り替えます。

【Space】キー

1文字分の空白を入力するのに使います(キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです)。

【↑】【↓】【←】【→】キー

カーソルを移動するときに使います。

【Enter】キー

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。改行したり、コマンドを実行したりします。

【Ctrl】キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

【Shift】キー

他のキーと組み合わせて使います。

【Alt】キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

【Caps Lock】キー

アルファベットを入力するときに使用します。**【Shift】**キーと一緒に押して、大文字／小文字を切り替えます。

【Num Lk】キー

テンキーモードにするときに押します。

【Scr Lk】キー

アプリケーションごとに機能が異なります。**【Fn】**キーと一緒に押します。

【Prt Sc】キー

画面のハードコピーを取るときに**【Fn】**キーと一緒に押します。

【Pause】キー

画面の表示を一時的に止めるときなどに押します。

【Break】キー

アプリケーションごとに機能が異なります。

【Insert】キー

文字を入力するときに、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

【Delete】キー

文字を削除するときに押します。

また、**【Ctrl】**キーと**【Alt】**キーと一緒に押すと、本パソコンをリセットできます。

【Home】キー

カーソルを行の最初に移動するときに**【Fn】**キーと一緒に押します。

また、**【Ctrl】**キーも一緒に押すと、文章の最初に移動します。

【End】キー

カーソルを行の最後に移動するときに**【Fn】**キーと一緒に押します。

また、**【Ctrl】**キーも一緒に押すと、文章の最後に移動します。

【Pg Up】キー

前の画面に切り替えるときに**【Fn】**キーと一緒に押します。

【Pg Dn】キー

次の画面に切り替えるときに**【Fn】**キーと一緒に押します。

【Back Space】キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

【SysRq】キー

アプリケーションでサポートしている場合、キーボードをリセットするときなどに使用します。**【Fn】**キーと一緒に押します。

【】キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

【】キー

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。また、マウスの右クリックと同じ役割をします。

8 フロッピーディスクについて

取り扱い上の注意

故障を防ぐため、フロッピーディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

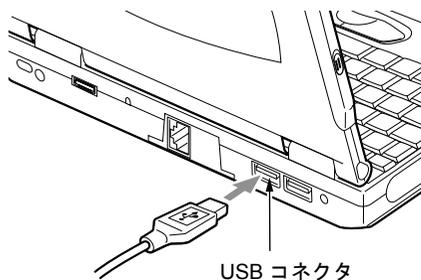
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッターを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

FDD ユニット（USB）の取り付け／取り外し

本パソコンは、モデルにより FDD ユニット（USB）を添付しています。
ここでは、FDD ユニット（USB）の取り付け／取り外しについて説明します。

■ 取り付け

- 1 パソコン本体背面の USB コネクタに、FDD ユニット（USB）を接続します。
コネクタの刻印が上側になるように接続してください。



POINT

- ▶ パソコンの電源が入った状態で取り付けおよび取り外しができます。
なお、取り付け時はコネクタをまっすぐ接続してください。

■ 取り外し

□ Windows XP の場合

- 1 タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックします。
- 2 「Y-E Data USB Floppy - ドライブ (A) を安全に取り外します」をクリックします。
- 3 「Y-E Data USB Floppy は安全に取り外すことができます。」とメッセージが表示されるのを確認します。
- 4 コネクタを取り外します。

□ Windows 2000 の場合

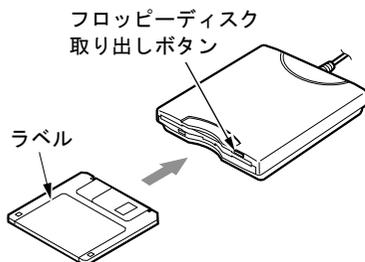
- 1 タスクバーの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックします。
- 2 「Y-E Data USB Floppy - ドライブ (A) を停止します」をクリックします。
- 3 「Y-E Data USB Floppy は安全に取り外すことができます。」とメッセージが表示されるのを確認して、「OK」をクリックします。
- 4 コネクタを取り外します。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

ここではフロッピーディスクのセット／取り出しについて説明します。

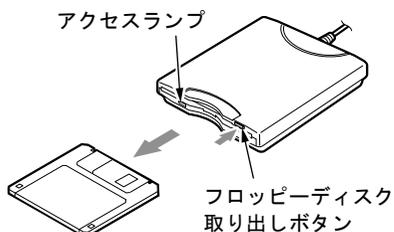
■ セットする

ラベルを上向きにして、シャッターのある側から、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで差し込みます。



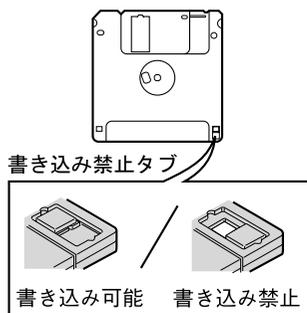
■ 取り出す

アクセスランプが消えていることを確認して、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。



POINT

- ▶ DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクを使用してください。その他のフロッピーディスクを使用すると、動作が保証されません。
- ▶ 状態表示LCDの  が表示中にフロッピーディスクを取り出すと、ディスク内のデータが壊れるおそれがあります。
- ▶ フロッピーディスクに保存してある情報を消したくないときや、追加して書き込みたくないときは、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態（書き込み禁止の状態）にします。再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。



9 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

警告

-  感電 ● 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
- ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
 - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3ヶ月に1回程度の割合でクリーニングしてください。

■ 用意するもの

商品名：クリーニングフロッピーマイクロ
商品番号：0212116
(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375)

■ お手入れのしかた

- 1 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 2 「マイコンピュータ」のフロッピーディスクドライブにアクセスします。
- 3 メッセージが表示されたら「いいえ」をクリックします。
- 4 アクセスランプが消えているのを確認して、クリーニングフロッピーを取り出します。

第 3 章

BIOS

3

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの様子は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 BIOS セットアップとは	54
2 BIOS セットアップの操作のしかた	55
3 メニュー詳細	59
4 BIOS のパスワード機能を使う	67
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	70

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 省電力モード（電源を入れた状態で本パソコンを一定時間使用しなかったときに、消費電力を減らして待機している状態）を設定するとき
- 起動時の自己診断テスト (POST) で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.55）の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- ▶ OS により、設定する値が異なる項目があります（→ 『取扱説明書』）。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリーによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」にご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断テスト中は不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ▶ 起動時の自己診断テスト (POST (ポスト))
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST : Power On Self Test) といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 状態表示 LCD の  が点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「< ESC >キー：自己診断画面 / < F12 >キー：起動メニュー / < F2 >キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、【F2】キーを押してください。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

メニューバー

メニューの名称が表示されます。

カーソル

設定する項目に合わせます。

項目ヘルプ

カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド

各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ		
メイン	詳細	セキュリティ 省電力 起動 情報 終了
システム時刻:	[12:34:56]	項目ヘルプ 現在の時刻を、時：分：秒で設定します。(24時間制)
システム日付:	[XXXX/XX/XX]	
▶ プライマリマスター	[XXXXX XXXXXXXX]	<Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。
言語 (Language):	[日本語 (JP)]	<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。
F1 ヘルプ ↑ ↓ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定 Esc 終了 ← → メニュー選択 Enter ▶ サブメニュー選択 F10 保存して終了		

POINT

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく OS が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順2からやり直してください。
- ▶ 手順3で【F12】キーを押すと、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、「BIOSセットアップを起動」を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

起動メニュー	
1.	フロッピーディスクドライブ
2.	ハードディスクドライブ
3.	USB CD-ROMドライブ
<BIOSセットアップを起動>	

- ▶ 【F12】キーを押して、起動メニューを表示させた後、パソコン本体に USB CD-ROM ドライブを接続しても USB CD-ROM から起動は行えません。パソコン本体に USB CD-ROM ドライブを接続した後、パソコンを再起動し、もう一度【F12】キーを押して起動メニューを表示させてください。

設定を変更する

ここでは一般的な操作方法を説明します。

- 1** 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2** 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
- 3** 【Space】キーまたは【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。
- 4** 設定を保存して終了します。
「BIOS」－「BIOSセットアップを終了する」(→P.58)

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定は正確に行ってください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- ▶ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「BIOS」－「終了メニュー」(→P.66)をご覧ください。
- ▶ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(→『取扱説明書』)をご覧ください。
- ▶ 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Fn】 + 【↑】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、前ページに移動します。
【Fn】 + 【↓】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、次ページに移動します。
【Fn】 + 【←】キー	メニュー内の最初の項目にカーソルを移動します。
【Fn】 + 【→】キー	メニュー内の最後の項目にカーソルを移動します。
【F5】キー、【-】キー	各項目の設定を1つ前の設定値に変更します。
【F6】キー、【Space】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【←】キー、【→】キー	メニューを切り替えます。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOSセットアップを終了します。
【Esc】キー、 【Alt】 + 【X】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1つ上のメニュー画面に戻ります。
【F1】キー、 【Alt】 + 【H】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。

POINT

▶ ここでいう【-】キーは  のことです。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

- 1 【Esc】キーを押します。
「終了」メニューが表示されます。
- 2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ

- 3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを2～3回押してください。
- ▶ 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください（→ P.66）。
- ▶ いったん設定内容を保存した後、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください（→ P.66）。
 1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、【Enter】キーを押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 2. 【←】キーまたは【→】キーで「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 メニュー詳細

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

システム時刻

システム日付

プライマリマスター

POINT

- ▶ 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(→ P.66) を実行した直後は、「プライマリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

● タイプ

POINT

- ▶ 通常は「自動」に設定してください。

- シリンダ数
- ヘッド数
- セクタ数

POINT

- ▶ シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定する場合は正しく行ってください。間違えて設定すると、正常に動作しなくなります。
- ▶ 「タイプ」を「自動」に設定した場合は、シリンダ数、ヘッド数、セクタ数は表示されません。

- 最大容量
- マルチセクタ転送
- LBA モード制御
- PIO 転送モード
- DMA 転送モード

言語 (Language)

POINT

- ▶ 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

□ プラグアンドプレイ対応 OS

POINT

- ▶ Windows XP/2000 では「いいえ」に設定してください。

□ キーボード／マウス設定

- 起動時の Numlock 設定
- 内蔵ポインティングデバイス

□ ディスプレイ設定

- ディスプレイ

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」で画面表示を切り替えることができます（→「機能」－「表示装置の切り替え」）。
- 全体表示

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、【Fn】＋【F5】キーを押すことで表示の切り替えを行うことができます。

□ その他の内蔵デバイス設定

- IDE コントローラ
- 内蔵 LAN デバイス（FMV-270LS のみ）

POINT

- ▶ 本項目が「自動」に設定されている場合、バッテリー運用で本パソコンを起動すると、本パソコンは LAN ケーブルの接続を確認します。このとき、LAN ケーブルが接続されていないと、本パソコンは省電力のため内蔵 LAN デバイスを使用禁止にします。
- タッチパネル（タッチパネルモデルのみ）

□ PCI 設定

- 割り込み番号の予約
 - ・ IRQ 3 ～ IRQ 15

□ CPU 設定

- プロセッサシリアルナンバ

USB 設定

- USB 記憶デバイス

POINT

- ▶ FDD ユニット (USB) にセットしたフロッピーディスク、または CD-ROM ドライブ (USB) にセットした CD 媒体から起動する場合は、「使用する」に設定してください。

イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

POINT

- ▶ イベントログメッセージで、「POST エラー : XXXXXXXX XXXXXXXX」というメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」にご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
 - ・システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

管理者用パスワード

ユーザー用パスワード

管理者用パスワード設定

POINT

- ▶ 次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
 - ・ ユーザー用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード文字数
 - ・ 起動時のパスワード
 - ・ 取り外し可能なディスクからの起動
 - ・ フロッピーディスクアクセス
 - ・ スマートカードによるロック
 - ・ ハードディスクセキュリティ
 - ・ 所有者情報

□ ユーザー用パスワード設定

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードでBIOSセットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

□ ユーザー用パスワード文字数

POINT

- ▶ 本項目はユーザー用パスワードでBIOSセットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードでBIOSセットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

□ 起動時のパスワード

□ レジューム時のパスワード

□ 取り外し可能なディスクからの起動

□ フロッピーディスクアクセス

POINT

- ▶ 本項目は、BIOS 経由でアクセスしない OS (Windows XP など) では、正しく動作しません。

□ ハードディスクセキュリティ

- プライマリマスター

重要

- ▶ 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。使用する場合は、本パソコンで設定した管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの設定が必要となります。

□ 所有者情報

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されますが、選択できません。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

□ ハードディスク起動セクタ

POINT

- ▶ OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- ▶ この設定は、BIOS を経由しないで直接ハードディスクにアクセスする OS (Windows XP など) では、正しく動作しません。

省電力メニュー

「省電力」メニューでは、省電力モードに関する設定を行います。

省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは項目によっては設定が無効になることがあります。詳しくは各項目の説明をご覧ください。

□ 省電力モード

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効になります。

● ハードディスク省電力

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の「ハードディスクの電源を切る」の設定が有効になります。

● ディスプレイ省電力

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の「モニタの電源を切る」の設定が有効になります。

● スタンバイタイマー

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効となります。

● サスペンドタイマー

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の「システムスタンバイ」の設定に従って、サスペンドします。

□ サスペンド動作

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の「電源ボタン」の設定が有効になります。本項目は「サスペンド」に設定してご使用ください。

- 自動 Save To Disk

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効となります。

□ モデム着信によるレジューム

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効となり、通信ソフトの設定が有効になります。

□ 時刻によるレジューム

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目が無効となり、「タスク」の設定が有効になります。

□ レジューム時刻

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目が無効となり、「タスク」の設定が有効になります。

□ 詳細設定

- サスペンド／レジュームスイッチ

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の設定が有効になります。

- カバークローズ サスペンド

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効となり、「電源オプションのプロパティ」の設定が有効になります。

- カバーオープン レジューム

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは本項目は無効となります。

- LANによるレジューム（FMV-270LSのみ）

POINT

- ▶ ACPIに対応したOSでは、本項目は無効となります。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

- 高速起動
- 起動時の自己診断画面
- ネットワークサーバからの起動 (FMV-270LS のみ)
- 起動デバイスの優先順位
 - フロッピーディスクドライブ
 - ハードディスクドライブ
 - USB CD-ROM ドライブ
 - Realtek Boot Agent (FMV-270LS のみ)

POINT

- ▶ 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。ただし、「Realtek Boot Agent」は、FMV-270LS で「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合に表示されます。なお、「ネットワークサーバからの起動」を「使用する」に設定した場合、「Realtek Boot Agent」の優先順位は、再起動後に設定可能となります。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

- BIOS 版数
- BIOS 日付
- BIOS 領域
- CPU タイプ
- CPU 速度
- L1 キャッシュ
- L2 キャッシュ
- 全メモリ容量

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

変更を保存する

変更した内容をカスタム設定値として保存します。

POINT

- ▶ お使いのモデルによっては、「標準設定値を読み込む」を実行しても、一部の項目がご購入時の設定に戻りません。
「ご購入時の設定に戻す」(→『取扱説明書』)

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

- 管理者用パスワード
本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

- 1** BIOS セットアップを起動します。
「BIOS」 - 「BIOS セットアップを起動する」 (→ P.55)
- 2** セキュリティメニュー (→ P.61) の「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」を選択して【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

管理者用パスワード設定
新しいパスワードを入力して下さい。 [<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。 [<input type="password"/>]

または

ユーザー用パスワード設定
新しいパスワードを入力して下さい。 [<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。 [<input type="password"/>]

3 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。

また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード設定」(→ P.62)で設定することができます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

重要

- ▶ 管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」までご連絡ください。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

■ パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力を要求されます。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ 「電源オプションのプロパティ」で、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」または「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」の設定を有効に設定した場合は、レジューム時のパスワードを設定できます。ただし、この場合は Windows のパスワードを入力してください。

重要

- ▶ ハードディスクセキュリティ (→ P.62) を設定したハードディスクを他のパソコンに接続して使用する場合も、本パソコンで設定した管理者用パスワードもしくはユーザー用パスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。

パスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」までご連絡ください。

パスワードを変更／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1** 「パスワードを設定する」の手順 1～2 (→ P.67) を行います。
- 2** 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
- 3** 8桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 4** 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。
- 5** 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードやマウスが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 3～4 で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ▶ ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

5 BIOSが表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください（→『取扱説明書』）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST（→ P.54）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ▶ メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

■ 正常時のメッセージ

- <ESC>キー:自己診断画面/<F12>キー:起動メニュー/<F2>キー:BIOSセットアップ
起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【Esc】キーを押すと起動時の自己診断画面が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。また、【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面（→ P.56）が表示されます。
- <F12>キー:起動メニュー/<F2>キー:BIOSセットアップ
起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面（→ P.56）が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。
- BIOS セットアップを起動しています ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- nnnM システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、クイックポイント IV が使えるようになったことを示しています。

POINT

- ▶ 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、【Esc】キーを押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」の項目を「表示する」（→ P.65）に設定してください。

■ エラーメッセージ

- システムメモリエラー。オフセットアドレス:xxxx
誤りビット:zzzz zzzz
システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。メモリを取り外しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- 拡張メモリエラー。オフセットアドレス:xxxx
誤りビット:zzzz zzzz
拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **キーボードコントローラのエラーです。**
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **ディスクエラーです。:ハードディスク n**
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **システムタイマーのエラーです。**
システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。**
リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。**
CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
【F2】 キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。**
前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
起動途中で電源を切ってしまったたり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】 キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】 キーを押してください。
- **< F1 > キー : 継続 / < F2 > キー : BIOS セットアップ**
起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】 キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】 キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **日付と時刻の設定を確認してください。**
日付と時刻の設定値が不正です。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **パスワードロックされています。:ハードディスク n**
取り付けられたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- **NVRAM データが正しくありません。**
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **Invalid system disk**
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Non-System disk or disk error**
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Operating system not found**
OS が見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。
- **PXE-E61:Media test failure, Check cable**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。
- **PXE-E51:No DHCP or BOOTP offers received**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。起動時に必要な IP アドレスが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。
- **PXE-E53:No boot filename received**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。
- **PXE-E78:Could not locate boot server**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。
- **PXE-E89:Could not download boot image**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

● PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

 **POINT**

- ▶ 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

第4章 技術情報

4

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	76
2 コネクタのピン配列と信号名	79

1 仕様一覧

本体仕様

	FMV-270LS※1	FMV-270LS/WL※1	FMV-270LS/W1※1	
CPU※2	Transmeta Crusoe™ プロセッサ TM5500 (700MHz)			
キャッシュメモリ	1次: 128KB (CPU内蔵)、2次: 256KB (CPU内蔵)			
BIOS ROM	2MB Boot blocktype (フラッシュ ROM)			
システム RAM	128MB (このうち 16MB はシステム使用)			
システムバスクロック	133MHz			
内蔵ハードディスク※3	2.5 インチ 15GB (カスタムメイド: 30GB)			
表示機能	画面制御/VRAM	ATI 社製 RAGE™ Mobility-M [PCI 接続] / 4MB (SDRAM)		
	タッチパネル※4	方式: 抵抗膜方式 I/F: USB インターフェース	—	
	液晶ディスプレイ※5	8.9 インチ TFT カラー 1024 × 600 ドット (ドットピッチ 水平 : 0.1905mm 垂直 : 0.189mm)		
	発色数	液晶ディスプレイ表示 ・1280 × 1024 ドット時	1677 万色 (仮想スクリーンモード) ※6	
		・1024 × 768 ドット時	1677 万色 (仮想スクリーンモード) ※6	
		・1024 × 600 ドット時	1677 万色※6	
		・800 × 600 ドット時	1677 万色※6	
同時表示	・640 × 480 ドット時	1677 万色※6		
	外部ディスプレイ表示 ・1280 × 1024 ドット時	1677 万色		
	・1024 × 768 ドット時	1677 万色		
	・1024 × 600 ドット時	1677 万色		
・800 × 600 ドット時	1677 万色			
・640 × 480 ドット時	1677 万色			
音源機能	同時表示 ・1280 × 1024 ドット時	1677 万色 (仮想スクリーンモード) ※6		
	・1024 × 768 ドット時	1677 万色 (仮想スクリーンモード) ※6		
	・1024 × 600 ドット時	1677 万色 (液晶) ※6		
	・800 × 600 ドット時	1677 万色 (液晶) ※6		
	・640 × 480 ドット時	1677 万色 (液晶) ※6		
音源機能	AC-Link 接続サウンドチップ (16 ビットステレオ PCM) ソフトウェア Wavetable 機能内蔵 内蔵スピーカー (ステレオ)、ヘッドホン出力 (ステレオ)、 マイク入力 (モノラル)			
キーボード	一体型 OADG 配列標準 86 キー Windows キー・アプリケーションキー付き キーピッチ: 約 16mm キーストローク: 2mm			
内蔵ポインティング デバイス	標準内蔵 (クイックポイント IV)			
ワンタッチボタン※7	E-mail ボタン			
携帯電話接続	携帯電話接続用 USB ケーブル (オプション)			
モデム※8	内蔵 [通信速度 データ: 最大 56Kbps (V.90)、FAX: 最大 14.4Kbps]			

		FMV-270LS※ ¹	FMV-270LS/WL※ ¹	FMV-270LS/W1※ ¹
有線 LAN		内蔵 [100BASE-TX/10BASE-T]	—	
ワイヤレス LAN		—	内蔵 [IEEE802.11b 準拠]	—
H™ IN/AirH™ IN モジュール※ ⁹		—		64Kbps ベストエフォート方式/ 32k パケット方式データ通信対応
インターフェース	PC カード	PC Card Standard 準拠 TYPE I/II × 1 スロット CardBus 対応		
	マイク端子	φ3.5mm モノラル・ミニジャック × 1		
	ヘッドホン端子	φ3.5mm ステレオ・ミニジャック × 1		
	モデム※ ⁸	RJ-11		
	LAN	RJ-45		
	USB※ ¹⁰	4 ピン × 2		
	外部ディスプレイ	CRT 変換ケーブル [FMV-NCBL1] 専用端子 × 1		
電源供給方式		AC アダプタ または リチウムイオンバッテリー		
バッテリーパック		リチウムイオン 10.8V 1900mAh / 3800mAh (L)		
バッテリー稼働時間※ ¹¹	内蔵バッテリーパック	約 5.0 時間 約 4.5 時間※ ⁴	約 4.2 時間	約 4.6 時間
	内蔵バッテリーパック (L)	約 10.0 時間 約 9.0 時間※ ⁴	約 8.5 時間	約 9.3 時間
バッテリー充電時間	スタンバイ中/ 電源 OFF 時※ ¹²	約 2.5 時間 / 約 3.5 時間 (L)		
消費電力※ ¹³		約 43W 以下 (AC 電源時)		
省エネ法に基づくエネルギー消費効率※ ¹⁴		S 区分 0.00088	S 区分 0.0011	S 区分 0.00088
状態表示 LCD		反射型		
盗難防止用ロック		あり		
外形寸法 W × D × H (突起部含まず)		231 × 149.5 × 26.5mm 231 × 149.5 × 28.5mm※ ⁴	231 × 149.5 × 28.5mm	231 × 149.5 × 26.5mm
質量		約 880g 約 970g※ ⁴	約 980g	約 890g

(本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

※1： 以下、特に記述のない場合は、本パソコンの代表的構成（本体に内蔵バッテリーパック、AC アダプタ運用）における使用とします。

※2： アプリケーションによっては CPU 名表記が異なる場合があります。

※3： 本書のハードディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算値です。1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算のものとは表記上同容量でも、実容量は少なくなります。

※4： FMV-270LS ではタッチパネル搭載モデルの仕様となります。

※5： 以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・ 本パソコンの TFT カラー液晶ディスプレイは、高度な技術を駆使し、一画面上に 184 万個以上（解像度 1024 × 600 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・ 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、液晶ディスプレイの特質上、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

※6： 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、1677 万色で表示されます。

※7： 添付の「ワンタッチボタン設定」をインストールすると、新着 Eメールの受信などを行うボタンとして使用できます。

- ※8： 56000bps は V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。V.90 の 33600bps を超える通信速度は受信時のみで、送信時は 33600bps が最高速度となります。また、日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。
- ※9： ご利用に際しては、DDI ポケット株式会社への加入契約が必要です。
- ※10： すべての USB 規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
- ※11： 社団法人電子情報技術産業協会『JEITA バッテリ動作時間測定法 (Ver1.0)』(<http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html>)。なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、稼働時間は使用条件により異なります。
- ※12： スタンバイ時。ただし、使用条件により充電時間は異なります。
- ※13： その他の消費電力については以下のとおりです。
 - ・ 電源 OFF 時の消費電力：約 1W 以下（満充電時）
 なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - ・ 動作時の最大消費電力／最小消費電力：約 43W / 約 10W（低電力モード）
- ※14： スタンバイモード（充電なし。AC アダプタを含む）。エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

ワイヤレス LAN 仕様

項目	仕様
ネットワーク種類	IEEE802.11b 準拠 (Wi-Fi 準拠) ※1
転送レート	11/5.5/2/1Mbps (自動切換え)
使用周波数	2,400 ~ 2,473MHz
チャンネル数	11ch (そのうち 1ch を使用)
セキュリティ	ネットワーク名 (SSID) ネットワークキー (64 ビット / 128 ビット) ※2
ワイヤレス LAN の最大接続推奨台数 (アドホック接続時)	10 台以下 ※3

※1： Wi-Fi 準拠とは、ワイヤレス LAN の相互接続性を保証する団体「WECA」の相互接続性テストを合格していることを示します。

※2： ネットワークキー (WEP) による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット / 104 ビットです。

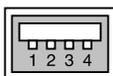
※3： お使いになる環境によっては、接続可能台数は減少することがあります。

FDD ユニット (FMV-NFD52S) 仕様

項目	仕様
外形寸法	142.0 × 103.5 × 17.0mm (± 2mm)
質量	約 285g
消費電力	500mA 以下
記憶媒体	3.5 インチフロッピーディスク 高密度 (2HD)、倍密度 (2DD)

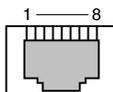
2 コネクタのピン配列と信号名

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	− DATA	入出力	−データ信号
3	+ DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

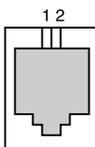
■ LAN コネクタ (100BASE-TX/10BASE-T)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD +	出力	送信データ+
2	TD −	出力	送信データ−
3	RD +	入力	受信データ+
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD −	入力	受信データ−
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

※：有線 LAN 搭載モデルのみ搭載されます。

■ モデムコネクタ (モデム)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

索引

A

AC アダプタ表示	21
AirH [™] IN モジュール用アンテナ	18

B

BIOS セットアップ	54
- 各キーの役割	57
- 起動する	55
- 終了する	58
- 設定を変更する	56
BIOS セットアップ画面	55
BIOS のパスワード機能を使う	67

C

Caps Lock 表示	22
--------------	----

D

DC-IN コネクタ	16
------------	----

E

E-mail ボタン	14
------------	----

F

FDD ユニット (USB)	20
----------------	----

L

LAN カード	32
LAN コネクタ	19, 79
LOW バッテリー状態	28

N

Num Lock 表示	21
-------------	----

P

PC カード	32
- セットする	32
- 取り扱い上の注意	32
PC カードアクセス表示	21
PC カードスロット	16
PC カード取り出しボタン	16

POST	54
------	----

S

Scroll Lock 表示	22
SCSI カード	32
SUS/RES スイッチ	15
SUS/RES 表示	21

U

USB コネクタ	19
USB マウス	44

あ行

液晶ディスプレイ	15
エラーメッセージ	71

か行

外部ディスプレイ	37
書き込み禁止タブ	51
管理者用パスワード	67
キーボード	15, 46
起動時の自己診断テスト	54
起動メニュー	65
強制終了スイッチ	19
クイックポイント IV	15
クリック	40, 42, 43
コネクタのピン配列と信号名	79

さ行

充電する	26
周辺機器	24
終了メニュー	66
詳細メニュー	60
状態表示 LCD	15
省電力メニュー	63
情報メニュー	65
スピーカー	15
正常時のメッセージ	71
セキュリティメニュー	61

た行

タッチパネル	41
--------	----

ダブルクリック	40, 42, 43
通信ランプ	17
電界強度表示ランプ	17
テンキーモード	46
盗難防止用ロック	19
ドラッグ	40, 42, 43

な行

内蔵ワイヤレス LAN アンテナ	18
------------------	----

は行

ハードウェアのお手入れ	52
ハードディスクアクセス表示	21
パスワード	67
- 削除する	69
- 設定する	67
- 変更する	69
パソコン本体のお手入れ	52
バッテリー	26
- 異常表示	27
- 運用する	26
- 残量表示	27
- 取り扱い上の注意	29
バッテリー残量表示	21
バッテリー充電表示	21
バッテリー装着表示	21
バッテリーパック	20
- 交換する	30
プリンタを接続する	36
フロッピーディスク	49
フロッピーディスクドライブ	20
- お手入れ	52
ヘッドホン端子	16
ペン	14
ポインティングデバイス	39
ポイント	43

ま行

マイク端子	16
マウスの使い方	43
メインメニュー	59
メール着信ランプ	17
メッセージ一覧	71
メッセージが表示されたとき	70
モデムコネクタ	19, 79

や行

ユーザー用パスワード	67
------------	----

わ行

ワイヤレス LAN	17
ワイヤレススイッチ	17

FMV-270LS, FMV-270LS/WL, FMV-270LS/W1
FMV-LIFEBOOK

ハードウェアガイド
B5FH-4281-01-00

発行日 2002年1月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。